

新年スタート 3学期スタート

3学期が始まりました。6年生にとっては小学校生活最後の3学期です。始業式で、草木染めの染織家志村ふくみさんの話(昔、中学校の国語の教科書にもありました)をしました。美しいピンクの色に染めるには、花が咲く前のつぼみの時期の桜の樹の皮を分けてもらうのだそうです。春に満開の花を咲かせるために冬の間、養分をたくわえ、早春に花卉の色になる成分を根からつぼみまで運び上げるのです。学年が終わり、新しい学年が始まるころに心の中に満開の花を咲かせるために、今なすべきことをしっかりとしてほしいと思います。

頑張っていますー鹿小の子どもたち

全校で集まる機会に紹介していますが、2学期、地域ぐるみ健全育成標語、火災予防ポスターコンクール、人権メッセージ、河川愛護啓発絵画、小さな親切作文、違うことこそ素晴らしい子ども作文コンクール、奈良県海の日山の日絵画コンクール、市PTA紙トンボ飛ばし大会等でたくさんの賞をもらってきました。先日のふれあい市民マラソンでも男子駅伝に3チーム、親子チームに2チーム、男子個人に4名が参加して活躍しました。夏休み中にあった陸上記録会のように毎年参加して自己記録を更新してほしいです。しかのだい学級の子どもたちも、2月4日～8日(7日休み)に中央公民館ロビーである市内小中学校合同の作品展に向けて取り組んでいます。

1月のめあて 規則正しい生活をしよう

<備えあれば、憂いなし>

今日1月17日は16年前に阪神・淡路大震災が起こった日ですね。大人は、奈良でも感じたその時の揺れとその後の生々しい映像が目には焼き付いていますが、子どもたちにとっては生まれる前の出来事です。お家でも地震に対する備えや起こった時の対処等を話し合ひましょう。

<インフルエンザ予防にご協力ください>

インフルエンザが流行しています。奈良県はまだ、警報レベルや注意報レベルを超えてはませんが報告数は確実に増加しています。保健だより等でこれまでも度々お知らせしていますが、うがい・手洗いと共に、集団感染予防のため、熱や咳などいつもと様子が違う時は、無理をしないで受診し、休養させてください。

校内スケッチ 1月

20日の大寒を前にして、冷え込みが一段と厳しくなりました。今朝の気温は、百葉箱の中の温度計で、-3℃になっていました。近くの観察池の氷は厚さ17mmもあり、厚さを測るために割るのが大変でした。



※今日の給食は、以前に紹介した、きなこ餅のお雑煮でした。

今年の4月から新しい小学校学習指導要領に基づいた教育内容がスタートします。そのため、今年度は、全学年で週当たり1時間増えましたが、4月からは、下図のとおり、1年生と2年生でさらに週当たり1時間授業時間が増えます。また、各学年とも、いくつかの教科の時間数が変更になります。なお、外国語活動は、5・6年生で週当たり1時間(年間35時間)の本格実施となり、3・4年生は、今年度と同じ年間12時間を総合的な学習の時間の中で実施します。(下表は、各学年の週当たり時間数です)

		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国語	総合	特活	合計
1年	22年	8	2	4	3	2	2	2	3	1	2	2	1	24	
	23年	9													25
2年	22年	8	2	5	3	2	2	3	1	2	2	2	1	25	
	23年	9													26
3年	22年	6.7	2	5	2.6	1.7	1.7	2.6	1	2.7	2.7	2.7	1	27	
	23年	7													3
4年	22年	6.7	2.4	5	3	1.7	1.7	2.6	1	2.9	2.9	2.9	1	28	
	23年	7													3
5年	22年	5.1	2.6	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	3.1	3.1	1	28	
	23年	5													2
6年	22年	5	2.9	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	3.1	3.1	1	28	
	23年	3													2

**ものあれこれ
電動鉛筆けずり機**



昨日のテレビ番組「題名のない音楽会」では、絶滅危惧楽器特集として、大蛇のような管楽器「セルパン」など今ではほとんど使われなくなった昔の楽器を紹介していました。ここで紹介するのは楽器ではなく電動鉛筆削り機です。25年以上前に発売されました。6枚の刃が扇風機のように回転しながら待ち構えているところに、上から入った鉛筆が回りながら下にさがり削られていく仕組みで、外から削られる様子がよく見えて面白かったのですが、一般的な電動鉛筆削り機のらせん形の刃には対抗できず、すぐに生産中止になりました。考えてみれば、ブラウン管テレビは言うまでもなく、あらゆる工業製品は改良を加えられた時点で古い機種はいつか役目を終わり生産中止の運命をたどるのでしょうが、ユニークな発想の製品は残ってほしいものです。